

明石市地域自立支援協議会 こども部会 提言・発表
「 今 から でも 遅 く な い 。 わ た し た ち に で き る こ と 」
～ 地 域 で 支 え る 、 み ま も る ～

- | |
|--|
| <p>(1) 「 こども 」 たちがしあわせに暮らすために、わたしたちにできることを
考えてほしい。</p> <p>(2) 小さくても、一歩を踏み出してほしい。</p> |
|--|

・ < こども部会 > の取り組み と 前回(平成27年11月18日)のふりかえり

1. 主に発達障がいのあるこどもたちが通所する < 児童発達支援事業所 > の役割

2. 障がいがあるこどもを育てる中でのお母様からきいた ちょっといい話

3. 明石に住むみなさまからのメッセージ

明石市地域自立支援協議会 こども部会
平成28年度 提言・発表骨子

1. テーマ

- ・「今からでも遅くない。わたしたちにできること」
～地域で支える、みまもる～

2. ねらい・目標

- (1) 「こども」たちがしあわせに暮らすために、わたしたちにできることを考えてほしい。
- (2) 小さくても、一步を踏み出してほしい。

3. 発表への基本的な考え方・主な論点

- (1) <明石市地域自立支援協議会(全体会)>の委員は、地域・団体の代表であり、「オピニオンリーダー」としての役割が大きいことから、こどもたちを取り巻く現状を正しく知ってほしい。
- (2) 前回(昨年度)(平成27年11月18日)に行った<こども部会>の提言・発表の後、それぞれの委員の立場、地域の住民の立場からどのような取り組みをされたか振り返ってほしい。
- (3) それぞれの委員の立場、地域の住民の立場でできることを知ってほしい。
- (4) それぞれの委員の立場、地域の住民の立場で、一步を踏み出してほしい。
- (5) こどもを育てるために大人・地域は何ができるのか、育ちに大切な「こと」・「もの」を考えてほしい。
- (6) 「ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)」をともに考えたい。
- (7) 発表は限られた時間であるため、戦略的・段階的に理解を促し、わたしたちが一步を踏み出すためのきっかけづくりを行い続け、第3回目の発表へつなげたい。

明石・三木

「地域発信が重要」

障害者理解へ

明石市地域
自立支援協

こども部会が提言

障害者総合支援法に

基づき、障害のある人

も暮らしやすい地域づ

くりを目指す明石市地

域自立支援協議会の全

体会が20日、同市中崎

1の市立市民会館で開

かれた。専門部会が昨

年度の実績と今年度の

方針を報告。このうち

「こども部会」は障害

者や家族、市民ら100人以上が出演するDVD映像を流しながら、地域へ発信することの重要性を提言した。

黒田大治郎会長(元神戸学院大学大学院教授)ら委員15人が出席。くらし▽しごと▽こども――の3部会担当者

が活動を報告した。

こども部会の飯塚由

美子部会長(明石市立

あおぞら園・きらきら

施設長)は、「今から

でも遅くない。わたし

たちにできること」を

テーマに、障害のある

子どもたちを地域で支

え、見守るための提言

を発表。約30分間の映

像で、児童発達支援事

業所の役割▽障害児を

持つ母親の思い▽自閉

症青年へのいじめ事例

――などを報告すると

ともに、「もし自分だ

ったらと思う」「個性

を尊重して認め合う」

などと市民からのメッ

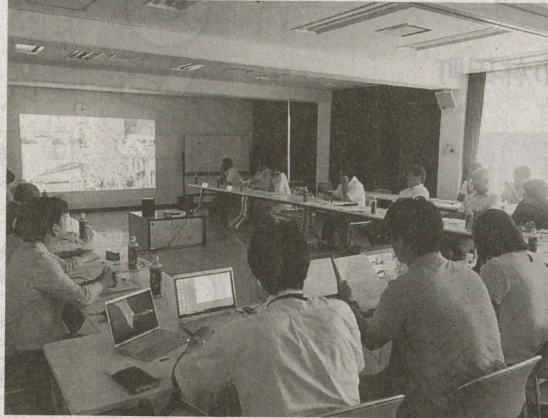
セージも流して、みん

なで支え合うために地

域へ発信することの大

事を訴えた。委員か

らは「自分自身の問題



DVD映像を流しながらこども部会の提言が報告された明石市地域自立支援協議会
――市民会館で

と気付くことが大事だ」「取り組みを丁寧に発信していこう」などと共感の意見が相次いだ。

くらし部会はグループホーム拡充に向けたアンケートなど、しごと部会は市内の障害福祉施設の自主製商品のカタログ製作など、それぞれの実績を報告した。

【駒崎秀樹】

第48105号

明治25年3月25日 第3種郵便物認可 ©毎日新聞社 2016 (日刊)



新毎日

7月21日(木)

2016年(平成28年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号

〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

毎 日 新 聞